

10月1日

中のまきば & 二次林を おさんぽしてきたよ!

※安比高原スキー場のあるお山です。
前森山 (1,304m)

西森山 (1,328m)



▲天然芝の広い野原が
広がります。



▲ミネガウラの紅葉



▲ウメバチソウ



▲リンドウ
今年最後のリンドウのお花
朝晩の寒暖差が激しくなると
青いお花がより濃い青に変わります。
湿原のイネ科植物も紅葉をはじめました。

中のまきば & ブナ二次林コース

→→→ が今日歩いたコースです。

自動車道路



今日歩いたコース →→→ だと、3km・約2時間で回れます。

至 安比・兄川
グリーンライン



奥のまきば
至 安比岳
登山口

森の広場

焼里予のまきば

白いブナ林

ブナの二次林



途中から砂利道です。

ハコネサシウウオ
がすんでいます

ぶなの馬
トイレもあります
(30台) P

ブナ二次林の地面には落葉がいっぱい。



この時季は一面のススキ。
風にそよぐ音もすてきです♪



7月中旬はヤナギランの群生地です



遊歩道には、20mごとに案内看板が立ててあります。

白いブナ林・中のまきば
←720m・980m→

次の看板をみつけながら
安心して歩けます

至 安比高原
スキー場・ペンション街

中のまきば



馬がいます！青森の寒立馬の子孫です。
下草を食べて、まきばの景観を保ってくれます。

安比といえは

ブナの二次林と樺のおはなし



「二次林」とは？

自然災害や伐採によって失われた原生林が自然に回復して林になった場所のことです。

安比のブナ二次林は

今から80年以上前の昭和初期に地元の人々が木炭や漆器の材料にするために原生林を伐採しました。その際に1ヘクタールあたり1本の母木が残されました。当時は手鋸での伐採だったために、切れていくくらい大きな木が残されたそうです。その後、牛の放牧が盛んになりましたが、牛がブナの成長を阻む笹を好んで食べたおかげで、ブナが育ちやすく、二次林の形成の助けとなりました。

🌀 マザーツリー 幹廻りは3.6mあります！

ブナの成長はとてもゆっくり。芽吹いてから1mの高さになるまで約5年かかります。直径40cmの木で100歳くらい。幹廻り3.6mのマザーツリーは300年以上生きていることになりましたね！！

ブナの樹皮の斑模様は樹皮の表面に棲みつけた地衣類が作っています。地衣類とは菌類と藻類が共生している生き物で、光合成も行いながら栄養を作り出して暮らしています。



ブナの実

ブナの古名は「ソバノキ」「ソバグリ」といいます。「ソバ」とは「稜角」(※三角にとがった角のこと)という意味。三角にとがった栗のような実をつけるので、ソバグリと呼ばれました。ちなみに麺類のソバの実も同じ語源で、昔は麦と区別して「ソバムギ」と呼ばれていたそうです。



熊さん大好き！人間がたべてもしぶみもなく、クルミのような味がおいしい。



キツキが虫を探して穴をあけた幹



ブナは成長するにつれて根から毒素を出して自分の周りの木を枯らしてしまいます。すぐ近くに2本の木が育っている場合、それは1つの実の中に入っていた同じ遺伝子を持った種から成長した双子の木ということです。

ブナを受難

ブナを漢字で書くと「樺」。ブナは重い雪に耐えられるように、よく曲がるやわらかい材質をしています。そのため、木材としては価値の無い木という扱いをされ、「樺」という漢字が生まれました。曲げには適しているため、太鼓の胴や家具の脚として使われることもありましたが、戦後の国策による杉の植林で原生林は激減してしまいました。近年になって、ブナが天然のダムのご役割をしていることや、海の豊かさにも影響していることがわかり、やっと大切にもらえるようになりました。



実



花



ユキザサ
新芽は山菜として人気ですが、**実には毒がある**ので**注意!!**

カラスシキミ
赤い実**は冬を越して翌年の夏まで枝に残ります**



ヤマハハコ
このお花は咲いている時からカラカラに乾いています。冷たい夜の空気に当たっても凍らないうように水分がありません。



▲ノコンギク



▲ヒメモチノキ



7月中旬



ヤナギランの種
7月の中旬には**はかわいい**ピンク色のお花を咲かせます

ホオノキの**実**
朴葉味噌や朴葉焼の葉は**は**として有名です。実はモクレンの**イ**中間。この中に**種子**がたくさん詰まっています。

ノバラの**実**
真赤で**きれい**。ドライフラワーやリースの**材料**にも**なります**。

